

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(2月26日～3月3日)

2024年3月11日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●中央選挙管理委員会による下院・地方議会議員選挙最終結果の発表(3月1日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領との電話会談

・二国間関係の発展に関する近い将来の展望や、最も重要な国際問題、地域の状況、発展の見通しにつき協議。

(3月2日 大統領府)

【外交】

●各国によるベラルーシ下院・地方議会議員選挙への批判

各国による今次選挙に対する批判は以下のとおり。

・ミラー米 국무省報道官

今次選挙は恐怖という雰囲気の下に行われ、今次選挙の手続きはどれ一つとして民主的とは言えない。米国としては、ルカシェンコ体制に対し、弾圧を止め、政治犯全員を釈放し、政治的に対立している者との対話を開始するよう改めて呼びかける。

・オーストリア外務省

今次選挙は自由でも公正でもない。オーストリアは自由で独立し、繁栄するベラルーシのために取組を継続する。

・ビルストロム・スウェーデン外務大臣

この欺瞞を断固として無視するようベラルーシの人々と国際社会に呼びかけたチハノフスカヤ民主勢力代表に連帯する。スウェーデンは同代表とベラルーシの人々による自由のための戦いを支持する。

・ドイツ外務省

今次選挙期間中の体系だった弾圧を断固非難。ルカシェンコは(2020年大統領選挙において)民主主義的な様々な理念の力を実感しており、体制はその力に依然として恐怖を抱いている。

・ボレル欧州連合(EU)外務・安全保障政策上級代表

EUは、ベラルーシ当局が欧州安全保障協力機構

(OSCE)による選挙監視団を招聘しなかったことを遺憾に思う。このことは、選挙プロセスの透明性の欠如と、国際的な選挙基準の遵守が確保されていないことを物語っている。ベラルーシ国民が真の民主的で透明性のある選挙を通じて代表者を選出する民主的権利を引き続き支持する。全ての政治犯の即時かつ無条件の釈放と効果的な社会復帰を強く求める。

・ルソプロス欧州評議会議員会議(PACE)議長

ベラルーシで行われた「選挙」は民主主義の剽窃に過ぎず、一切の民主主義的な正統性を持たない。

(2月25日、26日 Pozirk、「ゼルカロ(鏡)」)

●下院・地方議会議員選挙に対する EU の非難を受けたベラルーシ外務省声明

・ベラルーシ外務省は、ベラルーシの選挙に関連した EU 及び一部の EU 加盟国の一様の声明を精査した。欧州理事会による決議と、不法な制裁を拡大する決定についても検討がなされた。

・これらの文章には、事前に準備された結論が記載されており、目新しいものは何も含まれていない。我々はこれらを我が国の内政に干渉しようとする不成功に終わった試みの継続とみなす。

・我々は、国家を統治する主権はベラルーシ国民にのみ帰属することを強調する。ベラルーシ国民は、国家権力の形態を自ら決定するのに十分な経験、知識、知恵を持っており、押しつけがましい助言や指針を必要としていない。

・選挙には、CIS 諸国や上海協力機構(SCO)諸国から約 20 か国の代表を含む監視団が招かれていた。また、西欧諸国からも個人の監視員がベラルーシの選挙を監視した。その数は 4 万人を超え、外国と国内の両方の監視員が、選挙活動がベラルーシの法律に則って行われたことを認めた。

(2月28日 外務省)

●対ベラルーシ制裁の継続及び拡大

(1)EUによる制裁の継続

・EUは、制裁の1年間延長(2025年2月28日まで)を発表。

(2)ニュージーランドによる制裁の拡大

・新たに、第三国を経由したベラルーシ及びロシアへの制限品目の輸出禁止を明確化。

(2月26日 欧州理事会、「ゼルカロ(鏡)」、29日 ニュージーランド外務貿易省、Pozirk)

【内政】

●中央選挙管理委員会による下院・地方議会議員選挙最終結果の発表

・最終投票率:73.14%

・下院選挙:110議席のうち110議席が確定。

政党別当選者数は以下のとおり。

「ベラヤ・ルシ」	51
労働公正党	8
共産党	7
自由民主党	4
無所属	40

・地方議会選挙:12,514の小選挙区から12,511人が確定。うちロシア国籍の議員が15名。

政党別当選者数は以下のとおり。

「ベラヤ・ルシ」	3,234
労働公正党	186
共産党	307
自由民主党	76
無所属	8,708

(3月1日 中央選挙管理委員会)

●3月1日現在の政治犯の数は1,407人

(3月1日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(2月26日～3月3日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも9人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも56人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも289人を阻止。

(2月27日～3月4日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●周辺国へのたばこの密輸

・2023年、リトアニアでは約256万箱の密輸たばこが押収され、たばこの密輸に伴う国家の損失額は約920万ユーロに上る。押収されたたばこの大半はベラルーシ国営たばこ生産企業の製品。

・2023年のポーランドにおける、ベラルーシからの密輸たばこの押収額は、約600万ドル(前年は約50万ドル)。2023年に押収された密輸品のうち6割がベラルーシからのもの。

・2022年7月から2023年6月にかけて、英国からベラルーシには1億6,160万ポンドの飲料とたばこが輸入されているが、それには密輸品も含まれていると見られる。英当局もベラルーシが違法たばこの主な輸元であることを認識。違法たばこは合法的な貨物に紛れ込ませて英国に持ち込まれ、税を払わずに販売されており、損失額は毎年28億ポンドにも上るとされる。

(2月27日 Reform.by、「ゼルカロ(鏡)」)

【経済】

●新たなたばこ生産企業の登場

・2月26日の税務省の公示に、ベラルーシで4社目となるたばこ生産企業「セントニ PRO」の社名あり。

・「セントニ PRO」の本社及び倉庫の所在地、株主等の情報からは、同社と既存の民営たばこ生産企業「タバク・インヴェスト」との関連が推察される。

(2月27日 Reform.by)

●3月1日以降、治安機関が不審な送金を阻止することが可能に

・2023年8月に成立した不正決済取引対策に関する大統領決定によるもの。

・銀行には特別な検証システムが導入され、得られた情報が特別なデータベースへと移され、治安機関が24時間その情報へアクセス可能となる。

・不審だとされた支払いや送金は、最長10日間停止されうる。また、口座で何らかの違反行為が行われた

可能性がある判断された場合は、最大 10 日間口座の運用が停止される。

(2 月 28 日 「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のスイス訪問(2 月 26 日、27 日)

・国連人権理事会のイベントで、50 か国以上からの代表団を前に演説し、政治犯の状況とベラルーシの人道危機について訴えた。

(3 月 3 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●リトアニア移民局を名乗る電話が、リトアニア在住ベラルーシ人の元に殺到

・2 月 28 日、リトアニア在住の複数のベラルーシ人の元に、リトアニア内務省移民局を名乗る不審な電話があった。電話の内容は、ベラルーシへの強制送還が決定したと告げるものだった。

・リトアニア内務省移民局は、この電話が同局からのものではないと発表。

・以上の状況を受け、チハノフスカヤ氏事務所はリトアニア内務省移民局と連絡をとっていると報告。

(2 月 28 日 「ゼルカロ(鏡)」)

【統計等】

●2024 年年初時点でのリトアニア在住ベラルーシ人は 6 万 2,165 人

(3 月 1 日 Pozirk)

(了)